

令和4年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時

令和5年1月18日（水）13時30分～15時30分

2 会場

県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール

3 参加者

委員7人（欠席者なし）

県教育委員会1人

（オブザーバー参加）

○ 阿賀黎明探究パートナーズ関係者7人

○ 阿賀黎明高等学校教職員4人

計19人

4 次第及び発言の概要

(1) 開会

ア 会長挨拶（清野会長）

急速な社会の変化、阿賀黎明高校や阿賀町をどうしていくかというのは難題。今やっていることを反省しながら改善を加えていくことが大事。少しずついい方向にもっていく営みが大事。その意味で学校運営協議会は大事な意味をもっている。今日も皆さんの意見を聞きながら、学校や地域のためにできることを考えていきたい。

イ 校長挨拶（伊藤校長）

1月10日から3学期が始まった。卒業や進級のゴールに向けて頑張っている。3年生は進路が全員決まった。

地域と連携した探究活動は、コーディネーター、支援やコーディネートによって地域の方や事業所と連携した活動が行えた。年度ごとに運営協議会の実施を通じて地域との連携体制が強化できている。今年度の新たな取組、文化祭で探究パートナーズとのマルシェが好評だった。来年度はPTAにも協力いただきながら活動を促進していきたい。阿賀津川中学校との連携を来年度に向けて協議中。現状は、中学生が部活動に参加、3年生が体験活動に参加。接点があるため、連携することで学びが促進されると考える。

スクール・ミッションは、県立高校の案が市町村に意見を求めている段階。3月には公表される。来年度はスクール・ポリシーを検討していく。すでに探究パートナーズや生徒会が本格実施に向けて協議を始めている。来年度に向けて制定、策定の輪を広げ、本格的な制定活動に入っていきたい。これは連携活動にもつながる。来年度に向けて活動を開始しているところではあるが、引き続き皆さんにお力をお借りしたい。

(2) 令和4年度の取組

ア 教育活動における連携（事務局）

まちづくり観光課の協力を得て、ふるさとCM大賞に応募した。また、「阿賀黎明おもっしえぞマルシェ」で黎明祭をさらに盛り上げていただいた。令和5年度も引き続きこのような活動の協力をお願いしたい。

イ 生徒募集における連携（西田地域学校協働推進委員）

昨年度同様、オンラインによる説明会と現地参加のまなび体験会を実施した。本年度は東京説明会にも参加した。

11月に入寮員を募集し、10組の応募、うち8組を許可し、1名が辞退、現段階では7名が入寮希望である。

また、高校が主体の学校説明会も行っており、津川中学校や只見中学校の生徒が見学に訪れた。

(3) 「新潟の未来をS a G a S uプロジェクト」の進捗状況と次年度の予定について
(齋藤指導主事)

<資料に基づき説明>

ア 遠隔授業

今年度から本格実施。合計8科目の授業を1年間かけて配信する。充実した授業を行っていただけた。今週金曜は3年生の生徒が最後の配信授業に臨む。橋本副知事が阿賀黎明高校を先日視察した。映像と音声に若干のラグは見られるものの、対面と同じくらいのものを行っていると認識していた。県内外向けに2月に公開授業を行う予定であり、その際有識者からも御指導いただく。

イ 学校間連携

ネットワーク校6校の2年生、約300名が10月に探究学習の（中間）交流発表会を行い、1月28日（金）の午後、最終発表会を実施する予定である。

ウ 地域との連携・協働

阿賀町の地域の方々の伴走により探究活動が行われていることは、県内の先進事例であると認識している。来年度、県内の学校や自治体向けに発表の機会を作ること検討中。外部との連携を手探りしている自治体が多い中、事例として参考になればと思う。国事業は令和5年度までとなる。令和5年度度は最終年度というよりは、令和6年度以降の自走体制に向けたスタートアップの時期として、今までの取り組みを再構築し、自走できる体制を作っていける年にしたい。

エ スクール・ミッション

30市町村に意見を聞いて各校から案が提出された。阿賀町からも貴重な意見をいただいている。3月に公表する。来年度はスクール・ポリシーの策定となる。校長が話したとおり、一部の人が決めるものではなく、色々な方に関わっていただいて、阿賀黎明高校においては学校運営協議会を中心として多様な意見をいただきながら策定していただきたい。

(4) 質疑・応答

(伊藤校長)

S a G a S uプロジェクトで多様な科目に対して、質を担保していくために遠隔授業は有効である。学校間連携についても、生徒の数が少ない中で様々な価値観と出会い、互いの地域の課題を話し合うことで自分の地域にも生かすことができる。県と連携して、来年も進めていきたいと思っている。

(清野会長)

他の学校について、地域との連携はどれくらい認知、振興しているのか。

(齋藤指導主事)

コーディネーターのような活動をされる方が自治体にいるのは、阿賀町のほかに、佐渡市、糸魚川、新潟市南区と聞いている。ただ、地元の自治体がどう県立高校を支援したらよいか、また市内の複数の学校を支援するにはどうしたらよいかは手探りの状態である。

(遠藤委員)

2月4日の発表会は、一般の方は視聴できるのか。

(齋藤指導主事)

一般の方は視聴できないが、コンソーシアムのメンバーは視聴できるかと思う。

(猪俣委員)

次年度の入学者の定員に対して、どれくらい出願見込があるか教えていただきたい。言える範囲で構わない。

(伊藤校長)

町外については、入寮許可の数である。入寮予定者は7名と聞いている。

(猪俣委員)

五泉市とか近くの市町村の生徒はいなかったのか。

(伊藤校長)

通える範囲の生徒についてはまだ分からないが、今のところ聞いていない。

(稲生委員)

中学3年生は、1月にも面談はあるが、12月が終わった段階で3年生49名全員が進学希望である。

(伊藤校長)

来年度、中高連携を進めることで、阿賀津川中学校の生徒にも本校のことをもっと知ってもらい、魅力を伝えていく意味でも連携を進めていきたい。

(猪俣委員)

地域との連携をした上での生徒の感想等があれば、お聞かせ願う。

(西田地域学校協働推進委員)

生徒それぞれが多様な活動をしている。例えば、町内でスポーツ活動に参加したり、社会福祉協議会主催の子供向けキッズサロンボランティアに参加したり、風舟でお菓子作りをしてみたりする等、校外での活動もある。これらが、進路にも繋がって行くかと思いつつ、まだ2か年しかやっていないため、来年度3学年揃う中で全体像が見えてくるかなと感じているところ。

(猪俣委員)

町外から入ってくる生徒の満足感も高まる活動を私たちも展開しなければならぬと感じているので、今後も関わっていききたい。

(齋藤指導主事)

入寮希望者10名のうち8名が入寮予定ということについて、理由をお聞かせ願う。

(遠藤委員)

入寮許可については、寮が28人定員のため、毎年10人か10人を切る位の人数が、学年として適切なのではないかと考えている。来年度は10名の入寮希望があったが、端的に言うとも高校に来て何をやるのか目的が見えない生徒がいた。そのような生徒には入寮をお断りした。阿賀黎明高校の魅力化としてやっている事業なので、阿賀町に来て何をしたいのか、何をしてくれるのかを期待している。

(齋藤指導主事)

全国的に地域みらい留学への参加数が増えているが、募集活動にどのような影響が出ているか。

(大江課長補佐)

2年前まで参加校は70校程で、来年度は100校を越える状況。生徒の募集については、みらい留学を中学2年生から検討している状況が増えてきている。一番大きな影響は、ハウスマスター等のスタッフの獲得競争が激化している。ハウスマスターの増員を計画してもなかなか見つからないという影響が出ている。

(加藤委員)

西田さんに伺う。みらい留学生在が3年生になって、進学か就職かという時期になるが、進学を選んだ子どもたちについて、寮では現在は相部屋であるが今後どのようにしていくか。

(西田地域学校協働推進委員)

受験生の勉強環境について、現在相部屋にしている。寮では学習部屋を備えていないため、話し合っている段階である。現状、朝食前までの早朝に食堂を学習室として解放して欲しいという要望があったため、2月のテスト期間から朝の自習室として食堂を使えるようにしていきたい。学習機会の提供という面では、限られた環境ではあるが、環境整備を進めていく考え。

(加藤委員)

進学にせよ就職にせよ、3年生の卒業した成果が次に繋がっていくと思うので、何かあったらいつでも相談して欲しい。

(4) 閉会、諸連絡（事務局）